

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

私たちは、誠心誠意、子どもと寄り添い、
「誇り」をもって、子どもたちの「誇り」を育てます。

不祥事根絶のための行動計画

東広島市立黒瀬中学校

作成責任者 校長 村上 正志

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の向上	○服務研修が受け身の研修にならないように研修の持ち方について工夫する必要がある。	○服務研修の方法について、参加型・体験的な研修を積極的に実施するとともに研修講師を各学年・分掌が行う等の工夫を行い、より自分事として捉えられる研修とする。	○研修内容・方法を工夫し、グループ協議等の参加型・体験的な研修を行う。 ○他県市町教育委員会の研修資料も積極的に活用する。また、服務研修の講師を学年・分掌の輪番制とし、講師担当者同士の議論を活発化させる。	○研修実施後、不祥事防止委員会で振り返りを行う。 ○研修資料保存用の紙ファイルを作成し、各自で随時研修内容の振り返りを行う。
	○机上の整理・整頓等、日常の行動における不祥事防止について、全教職員の規範意識を高める必要がある。	○「黒瀬中学校教職員の決意表明」を常に見える場所に置き、規範意識を高める。 ○職員室の机上整理等、身の回りの整理整頓の意識を常に持たせる。	○「黒瀬中学校教職員の決意表明」をカード化し、名札に入れ常時携帯し、朝礼等で確認する機会を設ける。 ○職員室の机上等を随時点検し、注意を喚起する。	○定期的に学年主任が朝礼後に確認する。 ○机上整理について注意した職員の改善状況を管理職が確認する。
組織的な不祥事防止体制の確立	○教職員相互で気になる部分を指摘し合える風通しの良い職場の雰囲気を醸成していく必要がある。	○教職員同士のコミュニケーションを図る中で、お互いの悩みを相談できる教職員集団にしていく。教職員相互で不祥事につながる可能性のある課題を発見した場合、早期に組織として対応する。	○企画委員会、不祥事防止委員会、生徒指導委員会等で業務の進捗状況を確認し、早期に行動修正ができるようにする。特定の職員に負担がかからないよう集団でサポートする体制をつくる。	○不祥事防止委員会で、情報交換を行い、状況を把握し、解決策を練る。
	○不祥事防止委員会からの指導助言や情報発信を強める必要がある。	○不祥事防止委員会において、各主任から課題について報告させる。不祥事を起こさないという職員同士の連携を高め、不祥事防止委員会で話し合った内容の周知徹底を図る。	○各主任が、積極的に指導助言をする等の不祥事防止を徹底できる体制をつくる。 ○不祥事防止委員会報告をその都度配付し、管理職及は進捗状況について、主任に報告させる。	○学年主任は学年会や職員朝会後の打ち合わせの場で、職員の意識統一を図る。 ○次の不祥事防止委員会で、周知状況を確認する。
相談体制の充実	○保護者・生徒への「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知が不十分である。	○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行い、相談しやすい体制をつくる。	○毎月の学校だよりやHPで「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」について掲載し周知する。 ○ポスターを作成し、全教室に掲示する。	○月1回発行の学校だよりで「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」を掲載する。 ○生徒・保護者アンケートを実施する。